

083 江戸時代 天保の改革

【天保の改革】

・享保の改革、寛政の改革を理想とする復古的政策。老中 水野忠邦

① 人返しの法

・江戸に流入した貧民の帰郷を強制

(比較) 寛政の改革の時の旧里帰農令は交通費と農具代を与えて帰農を「奨励」

② 印旛沼、手賀沼の掘割工事(また失敗)

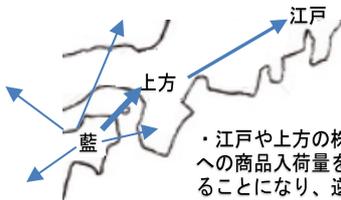
・江戸への物資流通路の確保も目的。

③ 株仲間解散令

- ・物価騰貴の原因は、江戸の十組問屋が上方市場から江戸への流通を独占しているためと判断。
- ・物価騰貴の真の原因は、各地から上方市場への入荷量が減少したことによる江戸への供給減少。



各地で 在郷商人 が台頭



・江戸や上方の株仲間解散は江戸への商品入荷量をさらに乏しくすることになり、逆効果となった。

④ 風俗取締り令

- ・柳亭種彦の合巻『偽紫田舎源氏』
- ・為永春水の人情本『春色梅児誉美(暦)』
- ・歌舞伎役者を江戸から追放(浅草の外れに移転)

⑤ 三方領知替 の撤回

・川越・庄内・長岡3藩の領知の入れ替え
→領民の反対で撤回に追い込まれた。

⑥ 上知令 の撤回、辞任

・豊かな江戸・大坂の50万石を直轄にして幕府財政安定と要地防衛を強化
→譜代大名や旗本の反対で撤回した。

【薩・長・土・肥の浮上】

① 薩摩藩の財政再建成功

調所広郷 による財政改革

- ・琉球貿易の強化、
- ・倭物 密貿易の推進
- ・奄美諸島の黒砂糖の 専売制

② 長州藩の財政再建成功

村田清風 による財政改革

- ・防長大一揆〔専売制反対一揆〕
→紙、蠟の専売制やめる
- ・藩営商社 越荷方 を 下関 に設置して本来上方に運ばれるべき商品(越荷)を買い取り、他所に販売して利益を上げた。
下関を通る 北前船 相手に倉庫業も。

③ 肥前藩 の近代化

- ・藩主 鍋島直正
フェートン号事件の時長崎防衛を担当していた藩。
→欧米列強の軍事力を痛感し、近代化に着手
- ・均田制 →本百姓体制の再建
- ・有田焼の専売。
- ・大砲製造所 と 反射炉 を築造
→日本で最も洋式軍事工業が進んだ藩
※戊辰戦争には参加が遅れ、明治政府は薩長中心の藩閥政府となった。ただし肥前藩は優秀で、司法卿の江藤新平や大蔵卿の大隈重信などの人材は多くが肥前藩出身です。

④ 土佐藩の藩政改革

・下級武士 おこぜ組 による財政再建

⑤ 幕府伊豆代官 江川太郎左衛門 の改革

太平洋に突き出た伊豆半島なので、欧米の軍艦の接近に一番危機感がありました。

- ・伊豆に 反射炉 築造
- ・江戸湾に 台場 築造(砲を置く土台)